学生相談室だより 118

カウンセラー　改田明子

秋空が眩しい季節になりました。大学では、学生が休み時間の教室で談笑する日常が回復しつつあります。

オンラインの生活を経験した私たちは、なぜ対面なのかというテーマに否が応でも向き合うことになりました。オンラインの授業と対面授業で同じ内容を取り扱ったとき、その両者の特徴が鮮明に感じられます。例えば、あるテーマについて、どのように考えるか選択肢をあげて挙手するという場面。オンライン授業でもアンケートの機能を使って選択肢を選ぶことができますが、オンラインでは他の受講者がどの選択肢を選んでいるのかがお互いわからない状況で答えます。同じ内容を問いかけても、オンラインでは、選択が複数の回答に分散することも多いのに対して、対面での挙手では一つの多数派の回答に選択が集中する傾向があります。対面授業の受講者は同じ教室にいる他の学生の影響を受けていることがありありとわかります。

学生相談室でも、対面の教室で他の学生が自分のことをどのように見るか、他の学生の視線を気にする学生の姿があります。学生が気にしているのは、自分に対する批判的な視線、攻撃的な視線です。

そんなことを気にしないでと助言する前に、思います。視線のもつ格別に大きな力は、私たちの支え合いのためにあるのではないか、と。もし、学生たちが、ちょっとした逸脱に寛容な視線を送り、焦っている人に応援の視線を送り、頑張っている姿に敬意の視線を送ったならば、自分に居場所がないと心細かったり、自分はダメだと責めがちだったりする学生は、どんなにか勇気づけられるでしょう。せっかくの対面授業です。視線の肯定的な力をもっと信じて、温かい視線が交差する、そのような教室を目指したいと思います。そのような場でこそ、私たちは成長や学びの歩みを進めることができるのではないでしょうか。